

# 安達太良山・沼ノ平における地熱活動 -1999年2月～5月-

Geothermal Activity in Numanotaira crater, Adataro Volcano  
-February 1999-May 1999-

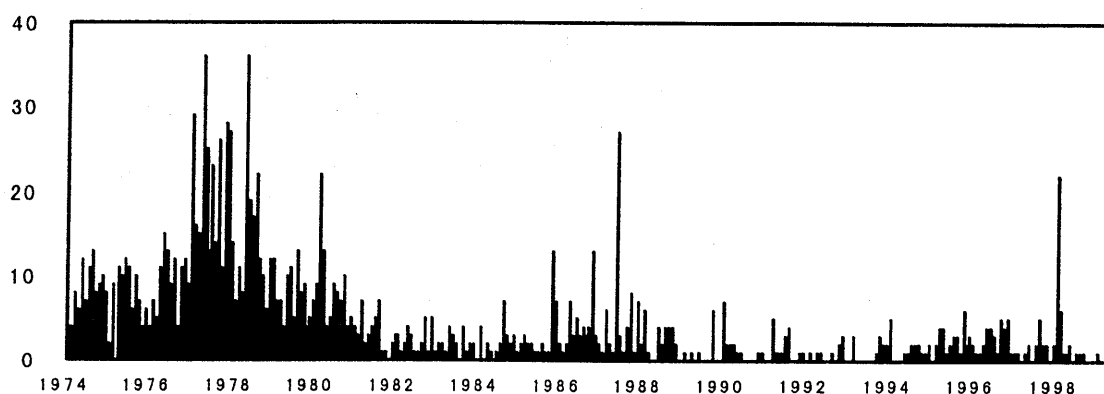
仙台管区気象台  
福島地方気象台

Sendai District Meteorological Observatory, JMA  
Fukushima Local Meteorological Observatory, JMA

安達太良山A点における月別地震回数を第1図に、日別微動回数を第2図に示す。本期間（1999年（平成11年）2月～5月）は地震、微動とも0回と非常に低調に推移した。

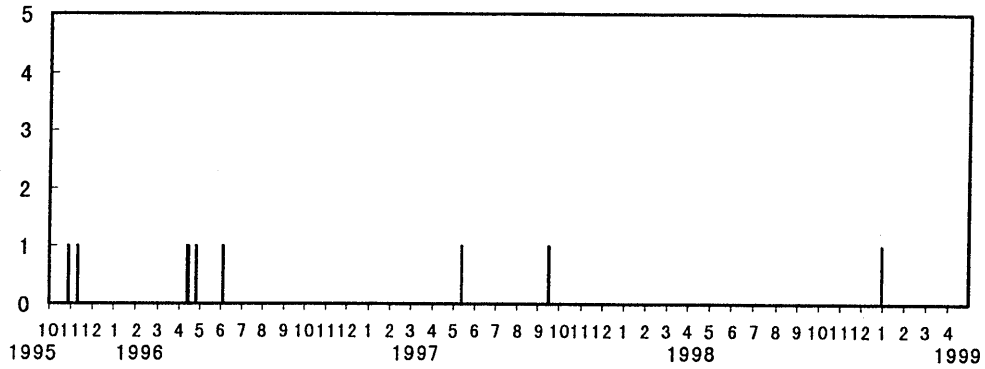
福島地方気象台は1999年5月13日～14日に現地観測（放射温度観測、目視観測、写真撮影）を実施した。第3図に観測点配置図を示す。この観測で、沼ノ平の火口中央部よりやや北側に直径約1m、高さ約30cmの円柱型の泥山（深さ30cmでの噴気温度95℃）を確認した。第4図にその位置を示す。この場所は、東北大学（本号に報告）や福島県からの情報（自然公園指導員が写真撮影）として、4月27日に噴気が上がっているのが確認されている場所と一致する。また、火口南西部では依然として噴気活動が活発であり、北部の泥水噴出も継続している（噴出口：長径約4m、短径約3mの楕円形）のを確認した。赤外放射温度計による火口表面の温度観測結果を第5図に示す。前回（1998年10月）の観測結果より約10℃高いが、過去の変化傾向をみると、年周変化によるものとも考えられる。

次に火口中央部のY-1観測点での地中温度の変化を第6図に示す。Y-1の地中温度は観測開始当初から1996年までは10～20℃程度で推移していたが、1998年4月に96℃と急激な温度上昇が観測され、その後も同程度で推移していた。今回は前回の観測（1998年10月）より約10℃下がったが、なお高温の状態が続いている。また、火口中央部の地熱温度の高い部分（境目76℃）が前回より北側に数m拡大しているのを確認した。



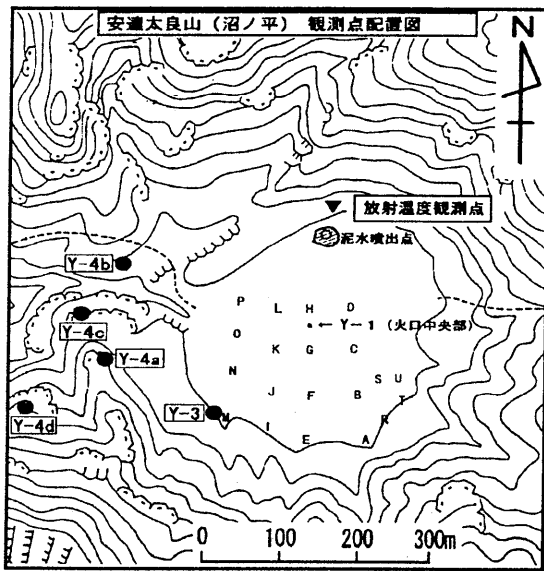
第1図 火山性地震月別回数（A点：1974年1月～1999年5月）

Fig. 1 Monthly frequency of volcanic earthquakes.  
(seismic station A : Jan. 1974-May 1999)



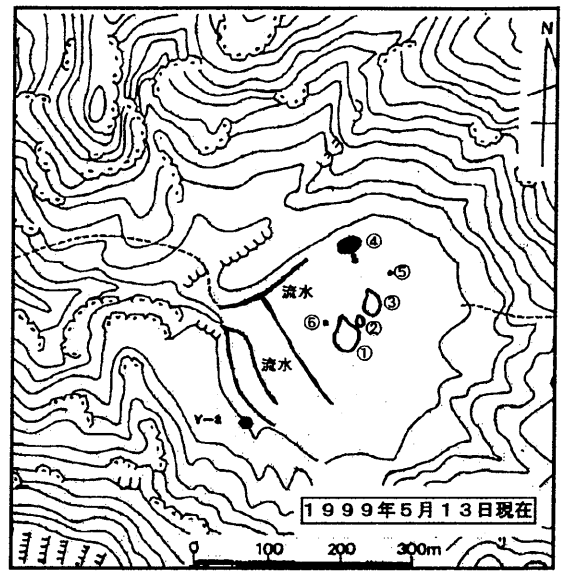
第2図 火山性微動日別回数 (A点 : 1995年10月~1999年5月)

Fig. 2 Daily frequency of volcanic tremors. (seismic station A : Oct. 1995-May 1999)



第3図 沼ノ平における現地観測点

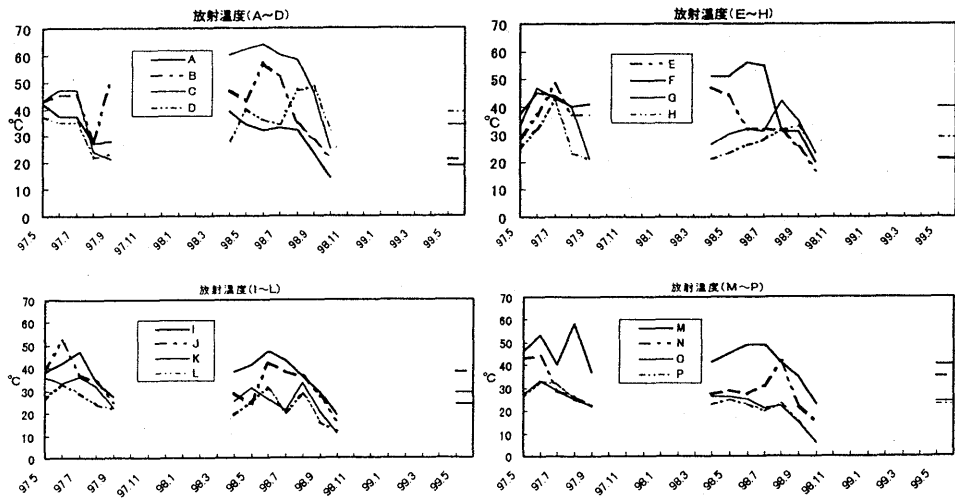
Fig. 3 Survey points in observation at Numanotaira crater.



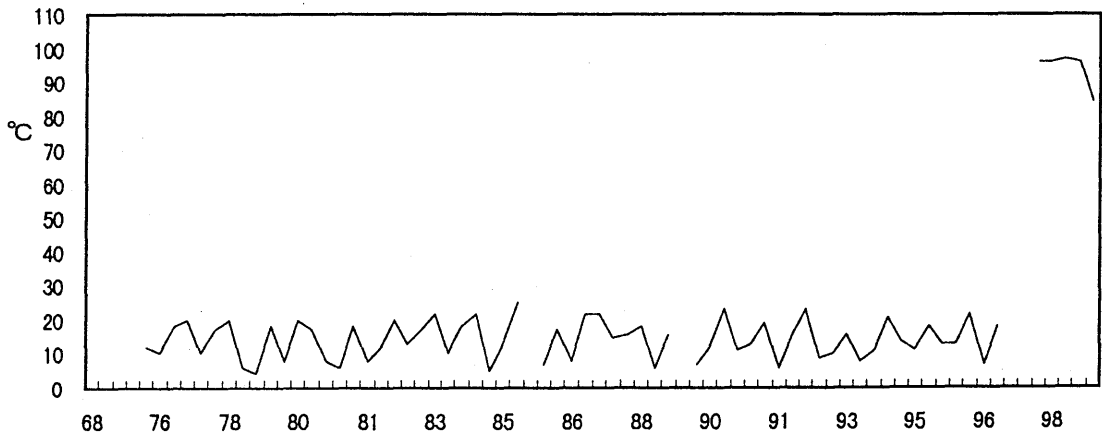
第4図 沼ノ平における泥水噴出, 泥の堆積 (泥山) 地点

- ① 1996.09.04 基礎調査観測で確認された泥の堆積
- ② 1996.09.05 福島の現地観測で確認された泥水噴出のあと
- ③ 1996.09.05 福島の現地観測で確認された泥水噴出のあと
- ④ 1996.09.27 基礎調査観測で確認された泥水噴出
- ⑤ 1996.05.28 福島の現地観測で確認された泥の堆積
- ⑥ 1996.05.13 福島の現地観測で確認された泥の堆積

Fig. 4 Mud ejection points in Numanotaira crater.



第5図 沼ノ平における赤外放射温度計による表面温度観測結果 (1997年5月~1999年5月)  
 Fig. 5 Surface temperatures in Numanotaira crater measured by infrared radiation thermometer.



第6図 沼ノ平中央部 (Y-1) の地中温度 (深さ30cm) (1968年5月~1999年5月)  
 Fig. 6 Ground temperature at 30cm depth, at survey point Y-1 in Numanotaira crater, from May 1968 to May 1999.